

人生の目的・人の使命

(昭和四十年七月発行)

人生の目的は決して現界の幸福と歓楽を味うだけにあるのではない。

然るに大多数の人々は幸福・歓楽だけに執着して、苦悩と災厄から免れることに焦慮し、ひたすらに小乗的な愛、自己中心の愛におちいつている。

神が人をこの世界に創造し給うた使命は、現在において安逸をむさぼらせるような浅薄なものではないはずである。人は神の無限の力を賦與されており、靈性・英智を授けられている。即ち常時これを研いて、神の境域にまで到達し得られる資質を具有しているのである。

人は神の御目的と御経綸をよく理解して、日々新しく善徳を積んで、正しい生活に生き、世界平和招来という天地の大経綸のために立ち働かせていただく天使の自覚を持って、全身全霊を捧げて積極的に大活動しなければならぬのである。ここに物的・自我的魂を鎮めて、宇宙大精神界の世に帰一し、神に帰一する鎮魂帰神の法の尊さがあり、この靈法によって、神人合一の境地に進み、人が靈界に通じて神の域に達し得られることが如実に立証されるのである。しかも是は最も正しく、最も簡捷かんしやうな行法であることを付け加えておきたい。